

## 報告事項

### 第1号 平成25年度事業報告および収支計算書について

#### 1. 平成25年度優秀業績の表彰

平成25年度優秀業績については慎重に検討された結果、

中山 哲夫氏（北里大学北里生命科学研究所 感染制御・免疫学部門 ウイルス感染制御学研究室 I）  
「Vaccine chronicle in Japan」  
（Journal of Infection and Chemotherapy Vol.19、No.5 p787-798）

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

小川 栄一氏（九州大学大学院感染制御医学（総合診療科））他10名  
「Insulin resistance undermines the advantages of IL28B polymorphism in the pegylated interferon alpha-2b and ribavirin treatment of chronic hepatitis C patients with genotype 1」  
（Journal of Hepatology 2012; 57:534-540）

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

#### 2. 講演会

平成25年6月5日～6日、パシフィコ横浜において第87回学術講演会を岩本愛吉 会長のもとで開催した。

（第61回日本化学療法学会総会：戸塚恭一会長と合同開催）

##### a 会員の業績研究発表

口演：167題（感染症：129題 化療：38題）  
ポスター：472題（感染症：382題 化療：90題）

##### b 教育講演

5題

##### 1 マクロライド系抗菌薬の抗菌活性以外の作用を探る～慢性気道感染症から急性呼吸器感染症における新たな展開～

司会：長崎大学病院 河野 茂  
大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座 門田 淳一

##### 2 Advances in the Prevention and Management of Catheter-Associated Bloodstream Infections

司会：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 公文 裕巳  
Center for Prostheses Infection, Baylor College of Medicine, USA Rabi O. Darouiche

##### 3 Treating for the Long-term: How to Individualize Antiviral Therapy on the Basis of Existing Co-morbidities

司会：東京大学医科学研究所先端医療研究センター・感染症分野 岩本 愛吉  
HIV Outpatient Clinic, University of Bonn, Germany Jürgen Rockstroh

##### 4 Update of Antimicrobial Therapy in Urinary Tract Infections

司会：福井大学医学部医学科病態制御医学講座内科学（1） 上田 孝典

##### 1) Antimicrobial Susceptibility of Urinary Isolates and Optimal Use of Antimicrobials for Urinary Tract Infection

Department of Urology, University of Occupational and Environmental Health Japan Tetsuro Matsumoto

##### 2) Optimal Management of Nosocomial Urinary Tract Infections

Technical University of Munich, Germany Kurt G. Naber

##### 5 Global Viewing; New Strategy to Maintain the Efficacy and to Develop New Compound by Advanced Technology

司会：杏林大学医学部附属病院感染症科 小林 治

##### 1) Small Molecules in Translational Research

Asian Influenza Initiative, Institut Pasteur Korea, Korea Ji-Young Min

##### 2) Strategies to Maintain the Efficacy of Antibiotic Treatment

Hampshire Hospitals and Southampton University, UK Matthew Dryden

##### c 緊急セミナー

1題

##### ヒト感染が明らかになったインフルエンザA（H7N9）

司会：東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野 岩本 愛吉  
東京女子医科大学感染対策部感染症科 戸塚 恭一  
川崎市健康安全研究所 岡部 信彦

##### d シンポジウム

29題

##### 1 学会提言：感染症専門医の将来像を考える2013

司会：東京大学医科学研究所先端医療研究センター 岩本 愛吉  
愛媛大学大学院医学系研究科血液・免疫・感染症内科学講座 安川 正貴

##### 1) 感染症専門医に求められる知識・技量・経験+ $\alpha$

独立行政法人国立国際医療研究センター病院国際感染症センター 大曲 貴夫

##### 2) 感染症専門医と感染制御

愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学 三嶋 廣繁

##### 3) 日本専門医制評価・認定機構の方針 社団法人日本専門医制評価・認定機構、早稲田大学理工学術院生命医科学科

池田 康夫

##### 4) 日本の内科系専門医制度の問題点と将来像

福島県立医科大学内科、日本内科学会認定制度審議会会長 渡辺 毅

##### 2 周術期感染症：予防・感染対策における新知見とControversy

司会：東京医療保健大学／大学院感染制御学 大久保 憲

兵庫医科大学感染制御学 竹末 芳生

##### 1) 手術部位感染サーベイランス；欧米との比較

NTT東日本関東病院外科 針原 康

##### 2) PCRを用いたMRSA迅速検査による術後MRSA感染症予防

兵庫医科大学感染制御学 竹末 芳生

##### 3) 周術期血糖コントロール

名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野 松田 直之

- 4) 術中低体温とSSI 兵庫医療大学看護学部 土田 敏恵
- 5) 術後感染予防抗菌薬；日本における最新知見～胃癌術期の投与期間に関する第III相臨床試験の結果を中心に～ 市立豊中病院外科 今村 博司
- 6) 術前シャワー浴/入浴、術野皮膚消毒) 東京医療保健大学/大学院感染制御学 大久保 憲  
司会：国立病院機構三重病院 谷口 清州
- 3 世界的視野でみる感染症疫学とその対策 東北大学大学院医学系研究科病理病態学講座微生物学分野 押谷 仁
- 1) アジアにおける手足口病とエンテロウイルス感染症流行の現状 国立感染症研究所ウイルス第二部 清水 博之
- 2) マイコプラズマ感染症の流行と薬剤耐性の世界的状況 川崎医科大学小児科学講座 尾内 一信
- 3) A型肝炎の分子疫学と国際的なウイルス伝播 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部 野田 衛
- 4) 本邦におけるRSウイルスの分子疫学的動向と世界規模での伝播について 新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健学分野 齋藤 玲子  
司会：慶應義塾大学医学部感染制御センター 長谷川直樹
- 4 TB・NTBをめぐる最近の話 結核予防会結核研究所抗酸菌レファレンス部細菌検査科 御手洗 聡
- 1) 新薬など抗結核療法について 公益財団法人結核予防会結核研究所臨床疫学部 伊藤 邦彦
- 2) IGRA (インターフェロンγ遊離試験)：クオンティフェロンとT-スポット 国内での臨床試験から指針の整備にむけて 国立病院機構千葉東病院呼吸器センター 猪狩 英俊
- 3) 肺MAC症特異的血清診断の有用性と臨床的位置づけ 独立行政法人国立病院機構刀根山病院呼吸器科 北田 清悟
- 4) 生物学的製剤と非結核性抗酸菌症性 社会保険中央総合病院呼吸器内科 徳田 均
- 5 忘れてはいけない輸入感染症・国際感染症 司会：東京都立墨東病院感染症科 大西 健児  
がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 菅沼 明彦
- 1) ウイルス性出血熱 国立国際医療研究センター国際感染症センター国際感染症対策室 加藤 康幸
- 2) 狂犬病 静岡県立静岡がんセンター 倉井 華子
- 3) 輸入真菌症とどう向かい合うか 千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野 亀井 克彦
- 4) デング熱・デング出血熱 国立感染症研究所感染症疫学センター 大石 和徳
- 5) マラリア がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 菅沼 明彦
- 6 The Sanford Guide “熱病” Forum in Yokohama 2013 司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態解析講座臨床病態検査学分野 一山 智  
東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御検査診断学分野 賀来 満夫
- 1) 日本の耐性菌の状況 国立感染症研究所細菌第二部 鈴木 里和
- 2) 耐性菌感染症に対する抗菌薬治療法の実践 聖路加国際病院内科感染症科 古川 恵一
- 3) Back to the Future：Colistin, Fosfomycin, and Minocycline Oregon Health Science University, USA David N. Gilbert
- 4) Challenges in Treatment of Infections Caused by Multidrug Resistant Gram-Positive Bacteria San Francisco General Hospital, USA Henry F. Chambers
- 7 Stop the “肺炎”-新しい事実と求められる対策- 司会：琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学 藤田 次郎  
長崎大学大学院病態解析・診断学 柳原 克紀
- 1) 肺炎の重症化・難治化の要因 琉球大学医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座 (第一内科) 比嘉 太
- 2) 微生物側の知見アップデート 東邦大学医学部微生物・感染症学 嵯峨 知生
- 3) 病態理解に基づく肺炎診断・治療への展開 長崎大学病院検査部 森永 芳智
- 4) 臨床現場でのガイドラインの活用に対する専門医の関わり 奈良県立医科大学医学部感染症センター 笠原 敬
- 8 Practical, Scientific, Intelligent 感染制御 司会：京都大学医学部附属病院感染制御部 高倉 俊二  
山形大学医学部附属病院検査部 森兼 啓太
- 1) 院内組織・役割分担の問題 公立大学法人横浜市立大学附属病院感染制御部 満田 年宏
- 2) サーベイランスの活かし方 岡山大学病院看護部・感染制御部 渡邊都貴子
- 3) 疫学的リスクアセスメントに基づく感染予防と制御 財団法人聖路加国際病院QIセンター 坂本 史衣
- 9 予防接種-世界標準を目指して- 司会：慶應義塾大学医学部感染制御センター 岩田 敏  
川崎医科大学小児科学教室 尾内 一信
- 1) 乳幼児期に接種するワクチン 福島県立医科大学医学部小児科 細矢 光亮
- 2) 学童期、思春期に接種するワクチン 福岡歯科大学総合医学講座小児科学分野 岡田 賢司
- 3) 成人に接種するワクチン (医療関係者を含む) 川崎医科大学小児科 中野 貴司
- 4) 海外渡航者向けのワクチン 東京医科大学病院渡航者医療センター 濱田 篤郎
- 10 PK-PD理論の応用と限界 司会：東北薬科大学薬学部臨床感染症学教室 藤村 茂  
東京女子医科大学病院薬剤部 木村 利美
- 1) カルバペネム系薬のPK-PD理論の応用と限界 同志社女子大学薬学部臨床薬理学 森田 邦彦
- 2) アミノグリコシド系薬への応用～ABKの場合～ 富山大学大学院感染予防医学講座/感染症治療部 山本 善裕
- 3) PK-PD理論の応用と限界 (薬剤師の立場から) 労働者健康福祉機構青森労災病院薬剤部 中居 肇
- 4) 臨床におけるPK-PD理論の限界 (医師の立場から) 東邦大学医療センター大橋病院外科 草地 信也
- 11 Host-Pathogen-Antibioticsの視点でとらえた感染症の治療戦略 司会：帝京大学医学部微生物学講座 斧 康雄  
東京医科大学微生物学講座 松本 哲哉
- 1) 免疫不全と感染症-宿主要因によって決定される感染症- 新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野 齋藤 昭彦
- 2) 上気道感染症の難治化におけるしたたかな細菌感染機序と治療戦略 和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 保富 宗城
- 3) 抗菌薬の有効性を高めるための工夫 長崎大学病院検査部 柳原 克紀
- 4) 重症敗血症・敗血症性ショックの治療戦略～Early Goal-Directed Therapyとエンドトキシン吸着療法～ 公立豊岡病院但馬救命救急センター 小林 誠人
- 12 真菌感染症の今日の問題-疫学・診断・治療からの研究的知見まで-

- 司会：千葉大学真菌医学研究センター真菌症研究部門臨床感染症分野 亀井 克彦  
 帝京大学医学部附属溝口病院第4内科 吉田 稔  
 東邦大学医学部病院病理学講座 澁谷 和俊  
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科） 泉川 公一
- 1) 病理からみる侵襲性アスペルギルス症・侵襲性糸状菌症  
 2) カンジダ症に対する新しい治療戦略  
 3) 取り下げ  
 4) ニューモシスチス症
- 13 抗ウイルス薬開発の現状と課題 司会：慶應義塾大学薬学部大学院薬学研究科レギュラトリー・サイエンス講座 榎村 浩一  
 塩野義製薬株式会社創薬・疾患研究所感染症部門 黒川 達夫  
 第一三共株式会社生物医学研究所 佐藤 彰彦  
 田辺三菱製薬株式会社研究本部薬理第一研究所第一部 山下 誠  
 神谷 直洋
- 1) 抗influenza薬  
 2) C型肝炎治療の新潮流  
 3) 次世代HIVインテグラーゼ阻害薬ドルテグラビル（dolutegravir, DTG, S/GSKI349572）の創薬と開発  
 塩野義製薬（株）グローバルディベロップメント 藤原 民雄  
 東京大学医科学研究所 川口 寧  
 日本たばこ産業（株）医薬事業部国際企画部 佐藤 真功
- 14 ICTメンバーとして求められるICN、ICMT、IDCPの役割 司会：虎の門病院薬剤部 林 昌洋  
 兵庫医科大学病院感染制御部 一木 薫  
 兵庫医科大学病院感染制御部 一木 薫
- 1) ICTメンバーとして求められるICNの役割  
 2) 認定臨床微生物検査技師と感染制御認定臨床微生物検査技師（Infection Control Microbiological Technologist, ICMT）  
 帝京大学医学部附属病院感染制御部 川上小夜子  
 虎の門病院薬剤部 内田ゆみ子
- 3) ICTメンバーとして求められるIDCPの役割
- 15 “新型インフルエンザ等”の法的規制を考える 司会：東京大学医科学研究所先端医療研究センター・感染症分野 岩本 愛吉  
 川崎市健康安全研究所 岡部 信彦
- 1) 公衆衛生の立場から考える新型インフルエンザ対策 東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 押谷 仁  
 2) 臨床の立場からみた“新型インフルエンザ等”の法的規制 愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学 三嶋 廣繁  
 3) ウイルス学の立場から—鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策の基本—
- 4) 法整備の必要性、考え方の立場から 北海道大学大学院獣医学研究科 喜田 宏  
 内閣官房新型インフルエンザ等対策室 田河 慶太
- 16 症例から考えるHIV感染症/AIDS診療 司会：がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 味澤 篤  
 東京医科大学八王子医療センター感染症科 藤井 毅  
 東京医科大学臨床検査医学講座 山元 泰之  
 東京慈恵会医科大学感染制御科 加藤 哲朗
- 1) 日本のHIV感染者の現状  
 2) 日常臨床でHIV感染者を発見するために  
 3) 「いきなりAIDS」の現況—非AIDS指標疾患も含めて— 琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学 健山 正男  
 4) 治療に難渋したAIDS症例 がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 柳澤 如樹  
 5) 抗HIV療法に失敗した場合の対処 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 瀧永 博之
- 17 抗MRSA薬治療ガイドライン：賢い使い方を再考する 司会：昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門 二木 芳人  
 兵庫医科大学感染制御部 中嶋 一彦  
 北里大学抗感染症薬研究センター 花木 秀明
- 1) バンコマイシンとテイコプラニン  
 2) リネゾリドの臨床的位置づけ 近畿大学医学部附属病院安全管理部感染対策室 吉田耕一郎  
 3) ガイドラインに基づくアルベカシンの投与の妥当性 兵庫医科大学感染制御部 中嶋 一彦  
 4) ダプトマイシン 愛知医科大学病院感染症科/感染制御部 山岸 由佳
- 18 感染症診療：ベーシック・コース（市中感染、医療関連感染の基本） 司会：自治医科大学感染症科 矢野 晴美  
 関東労災病院総合内科 岡 秀昭  
 武蔵野赤十字病院感染症科 本郷 偉元
- 1) 感染性心内膜炎  
 2) 肺炎：CAP, HAP, NHCAP 大阪大学医学部附属病院感染制御部 関 雅文  
 3) 髄膜炎 亀田総合病院総合診療・感染症科 細川 直登  
 4) 尿路感染症 産業医科大学泌尿器科 濱砂 良一
- 19 求められる感染制御、応えられるICT：隔離解除の基準を含めて 司会：東京慈恵会医科大学感染制御部 中澤 靖  
 慶應義塾大学薬学部実務薬学講座 木津 純子  
 自治医科大学附属病院感染制御部感染症科 森澤 雄司  
 順天堂大学大学院感染制御科学 堀 賢
- 1) 安全な隔離解除基準はあるのか？  
 2) MRSA  
 3) VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）  
 4) 当院における*Clostridium difficile*感染症の現状 埼玉医科大学感染症科・感染制御科 前崎 繁文  
 東邦大学医療センター大森病院感染管理部 吉澤 定子
- 20 尿路感染症・性器感染症への最適なアプローチを学ぶ 司会：産業医科大学泌尿器科 濱砂 良一  
 兵庫医科大学泌尿器科 山本 新吾  
 筑波大学医学医療系腎泌尿器外科 宮崎 淳  
 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 和田耕一郎
- 1) 急性単純性膀胱炎  
 2) 急性単純性腎盂腎炎—我々の取組みと課題—  
 3) 無症候性細菌尿 札幌医科大学泌尿器科 橋本 次朗  
 4) 尿道炎 岐阜大学医学部附属病院泌尿器科 安田 満  
 5) 子宮頸管炎 京都府立医科大学大学院女性生涯医科学 岩破 一博
- 21 HIV診療・診療体制にみられる最近の変化 司会：国立病院機構大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センター 白阪 琢磨  
 東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科 鯉淵 智彦  
 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 塚田 訓久  
 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター臨床心理室 仲倉 高広
- 1) HIV感染症治療の長期化と診療上の問題点  
 2) HIV陽性者の心理的問題の現状と対応  
 3) HIV感染症薬物療法認定薬剤師・HIV感染症専門薬剤師制度の現状と今後の展望 国立循環器病研究センター薬剤部 桑原 健

- 4) 日本エイズ学会認定制度の目指すもの  
22 抗インフルエンザ薬の臨床～治療から予防まで～  
1) 院内感染対策の現況 内科の立場から  
2) 小児科から～小児病棟における院内感染対策～  
3) Pandemic (H1N1) 2009インフルエンザ感染による妊婦死亡0はどのようにして成し遂げられたか  
4) 慢性腎臓病・透析患者のインフルエンザ対策  
5) 抗インフルエンザ剤の耐性  
23 学会提言：抗菌薬創出Action Plan 2013  
1) 世界の動き、日本の現状  
2) 製薬企業からの要望  
3) 新しい医薬品の創出に向けた厚生労働省の取り組み  
4) Innovative Incentives to Improve Development of Anti-infective Agents  
5) Europe's Innovative Medicines Initiative Boosts Antimicrobial Drug Development  
24 話題の小児感染症：その特殊性と難しさ・面白さ  
1) 症例提示1  
2) 症例提示2  
3) 症例提示3  
25 感染症診療ABC：アドバンスコース（免疫不全患者、HIV、熱帯医学など）  
1) 臓器移植患者における感染症  
2) HIV患者における日和見感染症-HIV感染という情報がなければ難しいー  
3) 輸入感染症  
4) 小児免疫不全患者（小児がん含む）における感染症  
討論者  
討論者  
討論者  
討論者  
26 Workshop for Legionella and Other Atypical Respiratory Pathogens 2013  
Key Note Lecture. Clinical, Epidemiologic and Laboratory Features of Legionnaires' diseases  
1) Macrolide Resistance in Mycoplasma Pneumonia in China  
2) Taiwan Aspect  
3) Epidemiological Study of Atypical Pathogens in a Nationwide Surveillance Network for Respiratory Infections  
4) Management of Atypical Pneumonia in Japan : Different Approach from Western Countries  
27 グローバルに展開される抗菌薬開発の現状と戦略  
1) Overview of the GAIN (Generating Antibiotic Incentives Now) Act of US Congress and Drugs Applicable  
2) キノロン薬耐性克服に向けたアプローチ  
3) マクロライド系抗菌薬耐性菌の克服に向けたアプローチ  
4)  $\beta$ -ラクタム薬耐性克服に向けたアプローチ  
5) 新たなクラスの抗菌薬創製へのアプローチ  
6) 抗真菌薬開発の現況と新規戦略  
7) 抗結核菌薬創製の新たなアプローチ  
28 耐性菌を科学する：グラム陰性新型耐性菌に関する知見のアップデート  
1) 多剤耐性緑膿菌の新興と変貌  
2) NDM-1新型メタロベータラクタマーゼ産生菌  
3) クラスAおよびクラスDに属するカルバペネマーゼの問題と今後—KPC-型およびOXA-型カルバペネマーゼ産生菌—  
4) アミノグリコシド、フルオロキノロン、ホスホマイシン耐性メカニズムの新知見
- がん・感染症センター都立駒込病院感染症科  
司会：神奈川県警友会けいゆう病院小児科  
倉敷中央病院呼吸器内科  
倉敷中央病院呼吸器内科  
慶應義塾大学医学部小児科  
富山大学医学部産科婦人科  
武蔵野赤十字病院腎臓内科  
新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健学分野  
司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門  
東京女子医科大学感染対策部感染症科  
東邦大学医学部微生物・感染症学講座  
塩野義製薬創薬・疾患研究所  
厚生労働省医政局研究開発振興課  
Northeast Ohio Medical University, USA  
Thomas M File Jr.  
Innovative Medicines Initiative, Université Libre de Bruxelles, Belgium  
Michel Goldman  
司会：新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野  
長崎大学医学部小児科  
成育医療研究センター生体防御系内科感染症科  
東京都立小児総合医療センター感染症科  
長野県立こども病院総合小児科  
司会：川崎医科大学小児科学教室  
東京大学医学部附属病院感染症内科  
京都大学医学部附属病院感染制御部  
国立病院機構名古屋医療センター感染症科  
東京都立墨東病院感染症科  
千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部  
東京大学医学部附属病院感染症内科  
東京医科大学八王子医療センター感染症科  
長崎大学病院感染症内科（熱研内科）  
成育医療研究センター生体防御系内科感染症科  
University of Pennsylvania Perelman School of Medicine, USA  
Paul H. Edelstein  
Moderator : Tokyo Women's Medical University, Japan  
Kyoichi Totsuka  
Respiratory Institute of First Affiliated Hospital, China Medical University, China  
Jian Kang  
Beijing Chaoyang Hospital, Beijing Institute of Respiratory Medicine, Capital Medical University, China  
Bin Cao  
Divisions of Clinical Microbiology and Infectious Diseases, Departments of Laboratory Medicine and Internal Medicine,  
National Taiwan University Hospital, National Taiwan University College of Medicine, Taiwan  
Po-Ren Hsueh  
東北大学：菊地 利明  
Internal Medicine1, Kawasaki Medical School, Japan  
Naoyuki Miyashita  
司会：塩野義製薬医薬研究センター創薬・疾患研究所  
第一三共株式会社生物医学研究所第3グループ  
星野 一樹  
Northeast Ohio Medical University, USA  
Thomas M File Jr.  
第一三共株式会社生物医学研究所  
大正製薬株式会社薬理機能研究所  
Meiji Seikaファルマ株式会社医薬研究所  
杏林製薬株式会社製品戦略統括センター  
アステラス製薬薬理研究所免疫感染症研究室  
公益財団法人結核予防会結核研究所  
後藤 直正  
荒川 宣親  
切替 照雄  
菱沼 昭  
石井 良和

	名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学／耐性菌制御学	和知野純一
29 耐性菌を科学する：グラム陽性耐性菌に関する知見のアップデート	司会：北里大学北里生命科学研究所病原微生物分子疫学研究室 群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学細菌学分野 順天堂大学医学部細菌学教室	生方 公子 富田 治芳 伊藤 輝代
1) 生まれ続けるMRSA		
2) バンコマイシン耐性腸球菌VRE	群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学細菌学分野・同薬剤耐性菌実験施設	富田 治芳
3) $\beta$ 溶血性レンサ球菌	北里大学北里生命科学研究所病原微生物分子疫学研究室	輪島 丈明
4) ペニシリン低感受性B群連鎖球菌（PRGBS）に関する最新知見	名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学／耐性菌制御学	木村 幸司
e 委員会報告		1 題
1 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会報告	司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰
1) 泌尿器科領域：複雑性尿路感染症	藤田保健衛生大学医学部腎泌尿器外科	石川 清仁
2) 耳鼻咽喉科領域	藤田保健衛生大学坂元種報徳會病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科	鈴木 賢二
2 日本化学療法学会レジオネラ治療薬評価委員会 委員会報告－第4報－	司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰
	東邦大学医学部微生物・感染症学	館田 一博
f 症例から学ぶ感染症セミナー		1 題
	司会：佐賀大学医学部附属病院感染制御部	青木 洋介
1) 症例提示1および解説	東邦大学医学部微生物・感染症学	館田 一博
2) 症例提示2および解説	東京女子医科大学感染対策部感染症科 札幌医科大学医学部泌尿器科学教室	平井 由児 高橋 聡
g ランチョンセミナー		1 8 題
1 MRSA感染症の治療戦略～新しいガイドラインの目指すところ～	司会：慶應義塾大学 名誉教授 昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門	相川 直樹 二木 芳人
2 Bundle を用いた真菌症マネジメント	司会：帝京大学医学部皮膚科	渡辺 晋一
1) 侵襲性カンジダ症～ACTIONs Bundle全国調査結果～	兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
2) 呼吸器真菌感染症領域『慢性アスペルギルス症を中心に』	日本赤十字社医療センター感染症科・院内感染対策室	安藤 常浩
3 肺MAC症の診断・治療および最近の知見	司会：大阪赤十字病院 独立行政法人国立病院機構東名古屋病院臨床研究部/呼吸器内科	網谷 良一 小川 賢二
4 肺炎予防の重要性とワクチンの有効性・安全性について	司会：埼玉医科大学呼吸器内科	金澤 實
5 ミクロビオームに関する最近の話題	国立病院機構三重病院呼吸器内科	丸山 貴也
6 インフルエンザの最新事情2012～2013	司会：滋賀県立成人病センター 愛知医科大学病院感染症科	笹田 昌孝 山岸 由佳
7 多剤耐性菌感染症の治療のための細菌学的基礎知識	司会：信楽園病院内科 東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	青木 信樹 渡辺 彰
8 尿路感染症における耐性菌の現状と治療法－経口抗菌薬の課題と可能性－	司会：東京医科大学微生物学講座 名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学／耐性菌制御学	松本 哲哉 荒川 宣親
1) 尿路感染症の原因菌としての $\beta$ ラクタマーゼ産生菌の現状	司会：神戸大学大学院・神戸大学医学部附属病院感染制御部	荒川 創一
2) 「JAID/JSC感染症治療ガイド」尿路感染症領域の改訂案	東邦大学医学部微生物・感染症学講座感染制御学分野 兵庫医科大学泌尿器科学講座	石井 良和 山本 新吾
9 MRSA感染症に「知恵」で挑む	司会：北里大学感染制御研究機構 北里大学抗感染症薬研究センター	砂川 慶介 花木 秀明
10 感染症迅速診断法の将来展望	司会：杏林大学医学部第一内科	後藤 元
1) 感染症迅速診断法の将来展望	東邦大学医学部微生物・感染症学講座	館田 一博
2) より良い感染症診療を目指して～小児領域を中心に～	慶應義塾大学医学部感染症学教室	岩田 敏
11 感染症における常識と非常識	司会：杉田耳鼻咽喉科 和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科	杉田 麟也 山中 昇
12 ガイドラインについて考える	司会：長崎大学病院	河野 茂
1) ガイドラインと医療訴訟	仁邦法律事務所 弁護士	桑原 博道
2) ガイドラインからみた肺炎診療の実際	大阪大学医学部附属病院感染制御部	関 雅文
13 感染症診断のバイオマーカーとしてのProcalcitoninの有用性	司会：東京慈恵会医科大学 慶應義塾大学 名誉教授	柴 孝也 相川 直樹
14 家庭と学校におけるインフルエンザウイルスの感染期間	司会：東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野 日本臨床内科医会インフルエンザ研究班/廣津医院	賀来 満夫 廣津 伸夫
15 臨床医が知っておきたいHIV感染症の治療	司会：国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター感染症内科	菊池 嘉 照屋 勝治 上平 朝子
16 呼吸器感染症の治療戦略～ペニシリン系抗菌薬の役割～	司会：大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座 富山大学大学院感染予防医学講座/感染症治療部	門田 淳一 山本 善裕
17 深在性真菌症の今後の治療戦略	司会：昭和大学医学部臨床感染症学 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科）、佐世保市立総合病院呼吸器内科	二木 芳人 宮崎 泰可

- 18 マクロライド系抗菌薬の多様な働きと最新の知見 司会：島根大学医学部微生物・免疫学講座 富岡 治明  
産業医科大学医学部呼吸器内科学 迎 寛  
5題
- h イブニングセミナー
- 1 肺炎球菌感染症の過去・現在・未来 司会：川崎医科大学小児科学教室 尾家 一信  
1) 小児用肺炎球菌ワクチンのEvidence, Impact, Challenge定期接種化と今後の課題  
千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部 石和田稔彦  
2) 肺炎球菌感染症の将来 京都大学医学部附属病院呼吸器内科・感染制御部 伊藤 稜  
2 Antimicrobial Stewardship を考える 司会：東北大学大学院医学系研究科感染制御・検査診断学分野 賀来 満夫  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座病態解析診断学分野 柳原 克紀  
新潟大学医歯学総合病院感染管理部 田邊 嘉也  
昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門 二木 芳人  
3 抗HIV療法：最新の治療戦略について 司会：国立病院機構大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センター 白阪 琢磨  
がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 今村 顕史  
東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科 鯉淵 智彦  
1) 日米欧の治療ガイドラインの比較 国立病院機構大阪医療センター臨床研究センターエイズ先端医療研究部 渡邊 大  
2) 日本の治療状況について  
3) Current HIV treatment Strategies in the United States～Single-Tablet Regimenを含む米国の最新HIV治療戦略～  
Brigham and Women's Hospital/Harvard Medical School, USA Paul E. Sax  
4 CLSI and EUCAST : Friend or Enemy? 司会：東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科 清田 浩  
東邦大学医学部微生物・感染症学 館田 一博  
1) CLSI and EUCAST : Friends or Enemy?  
Servicio de Microbiología, Hospital Universitario Ramón y Cajal, Spain Rafael Cantón  
2) CLSI Sets and Updates Standards Using Global Experts in a Transparent Consensus Process  
Evanston Hospital and North Shore University Health System,  
The University of Chicago Pritzker School of Medicine, USA Richard B. Thomson  
5 チーム医療による感染制御の成功へのアプローチ 司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 一山 智  
Cepheid, Sunnyvale, USA Fred C. Tenover  
2題
- i ICD講習会
- 1 ワクチンと感染制御（平成25年4月6日 有楽町朝日ホールにて開催）  
司会：国立病院機構三重病院 谷口 清州  
杏林大学医学部第一内科 後藤 元  
千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部 石和田稔彦  
1) Hibワクチン 東京大学大学院医学系研究科生殖発達加齢医学専攻産婦人科学講座 川名 敬  
2) HPVワクチン 札幌医科大学医学部小児科学講座 堤 裕幸  
3) インフルエンザとインフルエンザワクチン 国立病院機構東京病院呼吸器センター 永井 英明  
4) 肺炎球菌ワクチン 司会：国立感染症研究所・感染症疫学センター 大石 和徳  
大阪大学医学部感染制御部 朝野 和典  
2 輸入感染症と感染対策 東京医科大学病院感染制御部・渡航者医療センター 水野 泰孝  
1) 細菌感染症 国立感染症研究所ウイルス第一部 高崎 智彦  
2) ウイルス 千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部/千葉大学真菌医学研究センター 渡辺 哲  
3) 輸入真菌症の感染対策 国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部 狩野 繁之  
4) 輸入寄生虫症  
3題
- j 第28回国際化学療法学会（ICC2013）共催セッション
- 1 How to use PK-PD for our best practice Chair : Tokyo, Japan Kyoichi Totsuka  
Florence, Italy Teresita Mazzei  
1) From Standpoint of Physicians Nagakute, Japan Hiroshige Mikamo  
2) What we have Done until Now and What we should Do from Now Hiroshima, Japan Kazuro Ikawa  
3) PK-PD Principles : Pharmacological Aspects Florence, Italy Andrea Novelli  
2 Current and Future Issues in HIV Treatment Chair : Roma, Italy Stefano Vella  
Tokyo, Japan Aikichi Iwamoto  
1) Comparing Evidence and Scope behind Different Guidelines Roma, Italy Stefano Vella  
2) Current and Future Issues in HIV Treatment Boston, MA, USA Paul Sax  
3) Treatment of HIV/HCV Co-infection in the DAA Era Bonn, Germany Juergen Rochstroh  
3 Infection Control Practice (ICP) : Facts and Controversies Chair : Shimotuke, Japan Yuji Morisawa  
Hong Kong, China Wing Hong Seto  
1) Infection Prevention and Control in the Days of MDR-TB. What is Realistic? Cape Town, South Africa Shaheen Mehtar  
2) Controversies in Standard Precaution Geneva, Switzerland Stephan Harbarth  
3) Novel Technology against Air-Borne Infections Tokyo, Japan Satoshi Hori
3. 雑誌刊行
- 1) 感染症学雑誌  
87巻1号より逐次刊行した。  
地方会学術集会プログラムを掲載した。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy

Vol.19, No.1より逐次刊行した。

2014年Vol.20より電子版は年間12号。冊子体は電子版2号分を合併号として、隔月偶数月出版。

出版社をエルゼビア・ジャパン株式会社に移行した。

インパクトファクター：1.554

#### 4. 地 方 会

・第62回東日本地方会学術集会は、平成25年10月30日～11月1日の3日間、松本哲哉会長のもとで第60回日本化学療法学会東日本支部総会（草地信也会長）と合同で東京都・東京ドームホテルで行われた。

特別講演 2題、教育講演 4題、会長講演 2題、シンポジウム 12題、Meet the Experts 20題、  
スポンサードシンポジウム 3題、感染症セミナー 1題、教育セミナー 18題、ICD講習会 1題  
一般演題 184題（感染症：147題、化療：37題）

参加人数 1423名

・第56回中日本地方会学術集会は、鈴木克洋会長のもとで、第83回西日本地方会学術集会は、岡山昭彦会長のもとで平成25年11月6日～8日の3日間、第61回日本化学療法学会西日本支部総会（後藤直正会長）と共同開催で大阪市・大阪国際会議場で行われた。

特別講演 4題、教育講演 5題、シンポジウム 10題、ランチョンセミナー 11題、イブニングセミナー 1題、  
感染症セミナー 1題、ICD講習会 1題

一般演題 233題（中日本：54題、西日本：114題、西日本化療：65題）

参加人数 1263名

#### 5. 院内感染対策講習会

##### 1) 講習場所、期間及び人員

①. 院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

有楽町朝日ホール	(医 師)	平成26年 1月30日、31日	92 名
	(看護師)	平成26年 1月30日、31日	184 名
	(薬剤師)	平成26年 1月30日、31日	105 名
	(臨床検査技師)	平成26年 1月30日、31日	95 名
神戸国際会議場メインホール	(医 師)	平成25年 12月 9日、10日	86 名
	(看護師)	平成25年 12月 9日、10日	195 名
	(薬剤師)	平成25年 12月 9日、10日	93 名
	(臨床検査技師)	平成25年 12月 9日、10日	83 名

②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

フォレスト仙台	(医 師)	平成25年12月16日、17日	28 名
	(看護師)	平成25年12月16日、17日	92 名
	(薬剤師)	平成25年12月16日、17日	35 名
	(臨床検査技師)	平成25年12月16日、17日	34 名
有楽町朝日ホール	(医 師)	平成26年 2月20日、21日	72 名
	(看護師)	平成26年 2月20日、21日	193 名
	(薬剤師)	平成26年 2月20日、21日	83 名
	(臨床検査技師)	平成26年 2月20日、21日	79 名
奈良県文化会館国際ホール	(医 師)	平成25年11月28日、29日	52 名
	(看護師)	平成25年11月28日、29日	183 名
	(薬剤師)	平成25年11月28日、29日	69 名
	(臨床検査技師)	平成25年11月28日、29日	66 名
ホルトホール大分	(医 師)	平成25年12月12日、13日	50 名
	(看護師)	平成25年12月12日、13日	123 名
	(薬剤師)	平成25年12月12日、13日	47 名
	(臨床検査技師)	平成25年12月12日、13日	46 名

③. 高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

はまぎんホールヴィアマーレ	平成26年 1月16日、17日	152 名
	合 計	2337 名

##### 2) 講習内容

1. ①院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

院内感染対策のシステム化・連携	45分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）と微生物検査	45分

医療機関における感染制御の基本	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
医療器材関連感染	45分
呼吸器感染対策	45分
周術期感染対策	45分
血液媒介感染対策および職業感染対策等	45分
院内感染対策に関連する環境整備	45分
アウトブレイク対応の実際	45分
地域における感染対策のネットワーク構築	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分
2. ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会	
院内感染対策のシステム化・連携	45分
院内感染関連微生物（新しい話題の感染症の種類と特徴を含む）と微生物検査	45分
医療機関における感染制御	45分
高齢者介護施設における感染制御	45分
洗浄・消毒・滅菌の基本と実際	45分
抗菌薬の適正使用（薬剤の選択と投与計画）	45分
医療器材関連感染	45分
呼吸器感染対策	45分
血液媒介感染対策および職業感染対策	45分
周術期感染対策	45分
院内感染対策に関連する環境整備	45分
アウトブレイク対応の実際と地域ネットワーク・地域連携	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
パネルディスカッション	80分
3. ③高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会	
大規模施設における感染対策システムの構築	45分
感染症サーベイランス・微生物モニタリングの実際	45分
院内ラウンドの実際とそのポイント	45分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	45分
新興感染症への対応（インフルエンザ、MERS-コロナウイルス感染症対策を含め）	45分
大規模流行を起こす感染症への対応（アウトブレイク対応）	45分
感染対策に関連する環境整備	45分
感染対策教育・研修システムの構築と人材育成	45分
リスクコミュニケーション・メディア対応	45分
感染対策における情報入手と活用法	45分
地域における感染対策ネットワーク構築	45分
院内・施設内感染関連法令	40分
感染対策活動事例の紹介	45分
パネルディスカッション	80分

6. 施設内感染対策相談窓口事業

平成25年 3月1日～平成25年 3月31日	質問件数	5件
平成25年 4月1日～平成26年 2月28日	質問件数	21件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 61名

(敬称略)

浅井 信博	芦澤 洋喜	新井 康之	安藤 克利	石川 元直	石本 裕士	井手昇太郎
岩越 一	岩永 直樹	宇賀神 基	大神 信道	大島 謙吾	大須賀華子	大森慶太郎
笠井 大嗣	門脇 雅子	川村 英樹	菊地 正	菊地 弘敏	岸田 真嗣	木村 宗芳
楠元 規生	忽那 賢志	倉井 大輔	倉原 優	黒沼 幸治	桑名 司	見坂 恒明
小林 信明	小牧 千人	齊藤 弘樹	佐田 竜一	清水 博之	関谷 紀貴	田居 克規
永川 博康	成田 雅	南條友央太	西尾 壽乗	馳 亮太	羽田野義郎	林 誠
原田 英治	肥山 和俊	藤倉 雄二	星野 智祥	細萱 直希	細田 智弘	本田なつ絵
前田 正	丸山 貴也	水野なずな	宮崎 泰可	山崎 正弘	山下 浩平	山下 裕之
山田 康一	山中 篤志	山本 昌樹	吉野 麻衣	渡辺 恒二		

2) 更新者 262名

3) 指導医 55名

- 4) 感染症専門医認定研修施設 217施設 (ホームページ参照)
- 5) 専門医育成経過措置としての連携研修施設 研修に3年を要する施設 54施設 (ホームページ参照)  
 研修に4年を要する施設 44施設 (ホームページ参照)

6) 専門医研修カリキュラムの改正

1.4.3 特殊病態下の化学療法

- 1.4.3.1 新生児/小児  
 1.4.3.2 高齢者  
 1.4.3.3 妊婦  
 1.4.3.4 各種疾患合併  
 肝障害, 腎障害, 血液疾患, 臓器移植, 免疫不全など  
 1.4.3.5 術後感染予防

↓

1.4.3 小児の化学療法

1.4.4 高齢者

1.4.5 特殊病態下の化学療法

- 1.4.5.1 妊婦  
 1.4.5.2 各種疾患合併  
 肝障害, 腎障害, 血液疾患, 臓器移植, 免疫不全など  
 1.4.5.3 術後感染予防

7) 感染症サマースクール2013

平成25年8月9日(金)～10日(土) 品川プリンスホテル  
 参加者: 69名

8. インフルエンザに関連して以下を行った。
- ・ 提言「鳥インフルエンザA (H7N9) への対応 (暫定)」 (ホームページ掲載)。
  - ・ 新型インフルエンザの診療に関する研修を日本呼吸器学会と共催して行った (主催: 厚生労働省)。
9. ワクチン委員会から「風疹の流行について」ホームページに掲載した。
10. ICD制度協議会 新規認定者 194名 更新者 267名
11. 日本化学療法学会と合同で「MRSA感染症の治療ガイドライン」「MRSA感染症の治療ガイドライン (ポケット版)」を刊行した。「MRSA感染症の治療ガイドライン追補版」を学会誌およびHPに掲載した。
12. 日本化学療法学会と合同で「JAID/JSC感染症治療ガイドライン (呼吸器感染症)」を学会誌に掲載した。

**庶務報告**

1. 会員数 正会員: 11,057名 賛助会員: 16件 平成26年2月28日現在  
 除名については該当者無し
2. 第87回日本感染症学会総会は平成25年4月6日、有楽町朝日ホールにおいて行った。
3. 平成25年度評議員会は平成25年4月6日、有楽町朝日ホールにおいて行った。
4. 理事会は5回行った。
5. 感染症学雑誌編集委員会は6回行った。  
 Journal of Infection and Chemotherapy編集委員会は6回行った。
6. 学会賞選考委員会は1回行った。
7. 専門医審議会は1回行った。専門医試験委員会は10回行った。専門医テキスト委員会は2回行った。サマースクール実行委員会は2回行った。
8. 感染症セミナー会議は6回行った。
9. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会は2回行った。
10. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会は3回行った。
11. 四学会理事長懇談会は1回行った。
12. 経理事務打合会は1回行った。

**収支計算書について (別表4)**

補足資料 (サーベイランス事業: 別表6)

## 第2号 平成26年度事業計画および収支予算書について

### 事業計画

1. 感染症に対する調査および研究ならびにこれらの援助、今年度の優秀業績の表彰
2. 感染症に関する学術講演の開催
  - ・平成26年6月18日～20日の3日間、福岡市・ヒルトン福岡シーホークにおいて、第88回日本感染症学会学術講演会（会長・安川正貴）開催予定。
  - ・平成26年10月29日～31日の3日間、東京都・東京ドームホテルにおいて、第63回東日本地方会学術集会（会長・亀井克彦）開催予定。
  - ・平成26年10月23日～25日の3日間、岡山市・岡山コンベンションセンターにおいて、第57回中日本地方会学術集会（会長・三嶋廣繁）および第84回西日本地方会学術集会（会長・尾内一信）開催予定。
3. 感染症に関する学術図書の刊行
  - 感染症学雑誌 刊行回数 隔月A4（6回） 部数：11,300部 頁数約150頁
  - 学術講演会プログラム講演抄録集 部数：12,000部
  - Journal of Infection and Chemotherapy 刊行回数 隔月A4国際版（6回）
  - オンラインジャーナル 頁数約140頁
  - 地方会学術集会プログラムを感染症学雑誌に掲載
4. 専門医制度
  - ・第17回感染症専門医資格認定試験を9月15日（月）に実施する。
  - ・認定指導医、認定研修施設、「育成経過措置」としての連携研修施設・暫定指導医を募集する。
  - ・指導医講習会を第88回日本感染症学会総会、第88回学術講演会、第63回東日本地方会学術集会、第57回中日本地方会学術集会、第84回西日本地方会学術集会に於いて実施する。
  - ・感染症専門医を目指す若手医師を対象としたサマースクールを開催する。
5. JAID/JSC感染症治療ガイド2014（ポケット判）を日本化学療法学会と合同で刊行予定。
6. 厚生労働省委託事業（一般競争入札予定）
  - ・院内感染対策講習会
  - ・施設内感染対策相談窓口を設置
7. 4月に南アフリカ・ケープタウンで開催の16th International Congress on Infectious Diseasesにおいてシンポジウム「Antibiotic Resistance - State of the Art」を共催する。
8. 4月に開催される第3回日本微生物学連盟主催市民フォーラム「薬が効かない感染症の話-薬剤耐性感染症の現状とその対策」に共催する。
9. 新規抗菌薬の開発に向けた学会提言（耐性菌の現状と抗菌薬開発の必要性を知っていただくために）を6学会で共同で発表する。
10. 日本化学療法学会と合同で「多剤耐性菌と新たな抗菌薬の開発に関する国際シンポジウム」を開催予定。
11. ICD制度協議会に加盟する（継続）。
12. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス事業に参加する（継続）。
13. 日本微生物学連盟に加盟する（継続）。
14. 予防接種推進協議会に加盟する（継続）。
15. 一般社団法人日本医療安全調査機構に加盟する（継続）。
16. 一般社団法人医療安全全国医療行動に加盟する（継続）。
17. 関係学術団体との連絡協議
  - 日本医学会に評議員および連絡員を派遣し、医学発展のために各種問題につき相互に連絡強調する。

収支予算書について（別表5）

## 第3号 公益目的支出計画実施報告書について（別紙）

**審議事項**

**第1号議案** 平成25年度貸借対照表、正味財産増減計算書および財産目録の承認について  
平成25年度貸借対照表は別表1、正味財産増減計算書は別表2、財産目録は別表3の通りである。

**第2号議案** 次期会長承認について  
京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 一山 智 教授

**第3号議案** 次々期会長候補者選任について

**第4号議案** 次々期総会開催地および会期について

**第5号議案** 名誉会員および功労会員承認について  
名誉会員推薦：該当者無し  
功労会員推薦：山田 燦 先生

その他

## 平成25年度新任評議員

1. 齋藤 義弘 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)
2. 平井 由児 (東京女子医科大学感染症科)
3. 寺田総一郎 (江戸川病院健診センター・内視鏡センター)
4. 加藤 哲朗 (東京慈恵会医科大学附属柏病院感染制御部)
5. 相野田祐介 (東京女子医科大学感染症科)
6. 加藤 秀章 (名古屋市立大学大学院医学研究科)
7. 畠山 修司 (東京大学医学部附属病院感染症内科)
8. 上田 敦久 (横浜市立大学附属病院内科学第一講座)
9. 内藤 俊夫 (順天堂大学医学部総合診療科)
10. 林 三千雄 (一般財団法人住友病院感染制御部)
11. 幸福 知己 (一般財団法人住友病院臨床検査技術科兼感染制御部)
12. 豊川 真弘 (地方独立行政法人三重県立総合医療センター)

平成25年度  
物故会員

1. 畑 仁 先生 (正会員) (2012年12月12日)
2. 中西 崇介 先生 (正会員) (2013年 月 日)
3. 又吉 盛健 先生 (正会員) (2013年 月 日)
4. 大崎 雅也 先生 (正会員) (2013年 2月 7日)
5. 伊東 聡 先生 (正会員) (2013年 4月 日)
6. 植山 太郎 先生 (正会員) (2013年11月30日)
7. 高橋 理明 先生 (功 勞) (2013年12月 日)
8. 布上 董 先生 (名 譽) (2013年12月14日)
9. 近岡秀次郎 先生 (評議員) (2014年 1月 1日)
10. 柴田 清人 先生 (功 勞) (2014年 2月 4日)
11. 鈴木 康稔 先生 (正会員) (2014年 2月15日)
12. 渡邊 言夫 先生 (功 勞) (2014年 2月16日)